

## DVDのリージョンコードは誰のため？

～どこが著作権侵害の防止なのか～

### リージョンコードとは？

DVDビデオディスクには、リージョン情報という物が入っている。(ちなみに、DVD-ROMのようにビデオではない物には無い)

リージョンコードとは、右図のように世界を全部で6つのエリアに分け、通し番号を与えた物である。DVD映画ディスクには必ずその情報を含める事になっている。コードはこれらを複数指定する事も出来、また全世界対応という事で、0(ゼロ)を与える事も出来る。

一方で、各地域で販売される再生装置には、当該地域のコードを持たせる事も義務づけられている。再生機にはコード0は許されていない。

この両者コードが一致した時のみ、再生が行われるような仕掛けとなっている。これがリージョンコードによる再生制限である。

### 何故それが必要か

日本のマスコミは著作権保護の仕掛けだと盛んに書きたてるが、実態は少し違う。何故ならば、我々が例えば米国からDVDソフトを購入し、それを日本で鑑賞したって、著作者にはちゃんと金が行くからである。決して著作権を侵害してはいない。著作者が日本人には見て欲しくない、と宣言しているなら別だが、そのような作品は聞いた事もない。

この問題を理解する為には、消費者がこのような行動をとったとして、困るのは誰であるかを考えてみれば分かる。それは明らかだ。**流通業者である**。言い方を変えれば、「他人のファンドシで相撲をとる連中」である。

或いは、映画上映関係者であるとも言ってもよい。それは、「映画が上映される

本記事内容は全て筆者が個人的見解としてサイトにて公開している物である。あらゆる意味での営利目的使用について、無断で行う事を禁ずる。

y-simizu@yshimizu.com

p.1



リージョンのエリアマップ。

アジアが細かく分けられているのが良く分かる。

<http://www.bea.hi-ho.ne.jp/yarusou/rf.htm> などより

前にDVDで見る人が出たのでは、動員数が減ってしまう」という関係者発言でも分かる。一般に米国映画は日本では米国に遅れて公開されるので、事前にDVDで鑑賞されたのでは映画館が困る、という理屈だ。

だが、ここでおかしな事に気がつく。DVDで先に見る事が、映画館の観客動員数を減らすという因果関係である。少なくとも私に関して言えば、これは当たらない。いくらDVDで見たからと言って、優れた作品ならば必ず映画館の大画面と音響設備のもとで見たいと思うだろう。事実、MATRIXなどは、私は輸入DVDで見たあと、映画館でも鑑賞し、その後国内版のDVDまで購入してしまった。優れた作品ならむしろ相乗効果があるのだ。

DVDで事前に見た結果、映画館で見たいと思わないのならば、それは単にその作品がつまらないか、或いは映画館の設備が貧弱であるからに他ならない。シネマコンプレックスの繁盛ぶりを見よ。決してDVDの責任ではない筈だ。逆

に言うと、つまらない作品であろうと、映画館に足を運ばせようとする陰謀とも言える。著作権とは何の関係もない話だし、消費者(特に在日外国人)にとっては選択の自由を制限される由由しき問題だと言えるのではあるまいか。

前頁の図で見ると分かるように、このリージョンはアジアを狙い撃ちにした物である事が分かる。日本、韓国、中国が違うコードになっている。日本とヨーロッパが同じだが、ヨーロッパはSECAMなので、日本ではヨーロッパのDVDは再生できても受像機には映せない。

流通業者が儲ける為のこのメカニズム。実に腹立たしいと言えるのではないであろうか。

以上の理由から私自身は、次に述べる DeCSS はともかく、リージョンフリーなプレーヤを実現する事は、著作権違反でも何でも無いと思っている。

## 別に存在する著作権保護メカニズム

著作権侵害というのは、不法なコピーによって第三者が勝手に利益を上げたりする行為である。(細かく言えば色々有るが、本議論ではここに焦点を当てる)

DVDには不法コピーを防止するメカニズム(CSS - Content Scramble System)が組み込まれている。DVD自身が暗号と鍵を持ち、再生装置の持つ鍵と比べ(この時、実は鍵に対してあるアルゴリズムで生成された別鍵とを比較するという複雑な手順がとられる)合格したら映像が再生されるという具合に動作する。

DVDに記録されているデータ形式はMPEG2だが、この暗号化メカニズムによって、このMPEG2データだけを取り出して複製しても再生が出来ない。

ところが、このCSSがあっさり破られるという事態が発生し、関係者のメンツが丸潰れになった事は、まだ耳に新しいのではないだろうか。(DeCSSと

いうWindows用ミニアプリの出現事件)

これはたまたまあるソフト技術者が作ったものだが、プログラムサイズは僅か数十キロバイト。つまり、事業レベルで不法コピーを行おうとするのであれば、さしたる手間もなく出来てしまう、という事である。逆に言うと、その分の皺寄せが消費者に来ている、という事でもあるのだ。策士、策に溺れるという構図であろう。

## 補足・よくある間違い

DVDとは何の略かについて、実はDVD仕様書には何も書かれていない。だからDigital Video Discではない。また、時々有識者や評論家が誇らしげに使う、Digital Versatile Disc というのも答ではない。単なるDVDというのが正解だ。

DVDは高画質と言われる。LD(レーザーディスク)の430本に対し、DVDはおよそ480本の水平解像度を持つ。確かに数値は上だが、この差を明確に表示できる受像機は一般家庭には殆ど無いので実質的に意味はない。音質については、LDはとっくにCDレベルのデジタルトラックを実現していて、この点でも差は無い。DVDにはより高精度な音声トラックを入れるスペックはあるが、それに対応している映画DVDは存在しない。つまりマスコミが騒ぐほどの差はない。

DVDの画質が一般に綺麗に見えるのは、マスタリングプロセスが改善された点による部分が多い。事実、古いマスターデータからそのまま作成されたDVDには、見てがっかりする物も少なくない。逆に、バグス・ライフのようにデジタルデータから直接マスタリングされたDVDは、その高画質をいかに発揮する。つまり媒体の問題ではなく、リソースの問題が重要である。筆者の手元にある、メーカーのデモ用LDには、DVDと比べても決して劣らない高画質な物がある。

END